

茨城交通茨城線の廃線跡を歩く

中央技術(株)

岡崎 克美



1. はじめに

平成25年建コンIbaraki第15号2013.11号「水戸市内を走っていた路面電車」の(その2)ということで続きを寄稿させていただきます。

茨城交通の路面電車は水浜線(上水戸駅～湊駅)と茨城線(赤塚駅～御前山駅)の2路線あります。今回は、茨城線の赤塚駅～大学前駅間と水浜線の上水戸駅～水戸駅前間を紹介しました。今回は茨城線(別称 いばてつ線、御前山線)について、赤塚駅から終点の御前山駅までの全区間(水戸市域から城里町域)を、前回同様web上の当時の古い写真と現在を並べてみました。変化を見てください。

茨城線は赤塚駅から御前山駅まで、25.2Km、16駅となっております。表-1に駅(停車場)の概要と図-1、2に位置を示します。

表-1 茨城交通茨城線(赤塚-御前山) 停車場名及び経歴一覧

線名	駅名	よみ	開業	改称等特記	廃止
茨城交通 茨城線 (赤塚-御前山)	▲赤塚	あかつか	T15(1926).10.24	S19(1944).11.8赤塚-上水戸間電化 S40(1965).4.25赤塚-大学前間電車運 転廃止	S46(1971).2.11
	▲東石川	ひがしいしかわ	金毘羅前S3(1928).7.6	改 S29(1954)以降	S46(1971).2.11
	▲西原町	にしはらまち	S15(1940)~S17(1942)		S46(1971).2.11
	▲上水戸	かみみと	T15(1926).10.24	S19(1944)水浜線(谷中-上水戸間)開業 S31(1956)1.20水浜線(上水戸-大学前 間)乗入開始	S46(1971).2.11
	▲曙町	あけぼのちょう	S23(1948)~S35(1960)		S46(1971).2.11
	▲大学前	だいがくまえ	兵営前S3(1928).7.21	S20(1945)6.1上水戸-大学前(当時は南 袴塚)	S46(1971).2.11
	▲堀	ほり	S3(1928).8.31		S43(1968).6.16
	▲田野	たの	?		S43(1968).6.16
	▲飯富	いいとみ	T15(1926).10.24		S43(1968).6.16
	▲藤井	ふじい	T15(1926).10.24		S43(1968).6.16
	▲那珂西	なかさい	T15(1926).10.24		S43(1968).6.16
	▲石塚	いしつか	T15(1926).10.24		S43(1968).6.16
	▲常陸岩船	ひたちいわふね	S3(1928).11.7		S41(1966).6.1
	▲阿波山	あわやま	S2(1927).2.23		S41(1966).6.1
	▲阿野沢	あのさわ	S3(1928).7.6		S41(1966).6.1
	▲御前山	ごぜんやま	S2(1927).3.26		S41(1966).6.1

出典：1) の記述から表化



図-1 鳥瞰による路線、駅位置図 (カシミール3Dによる)

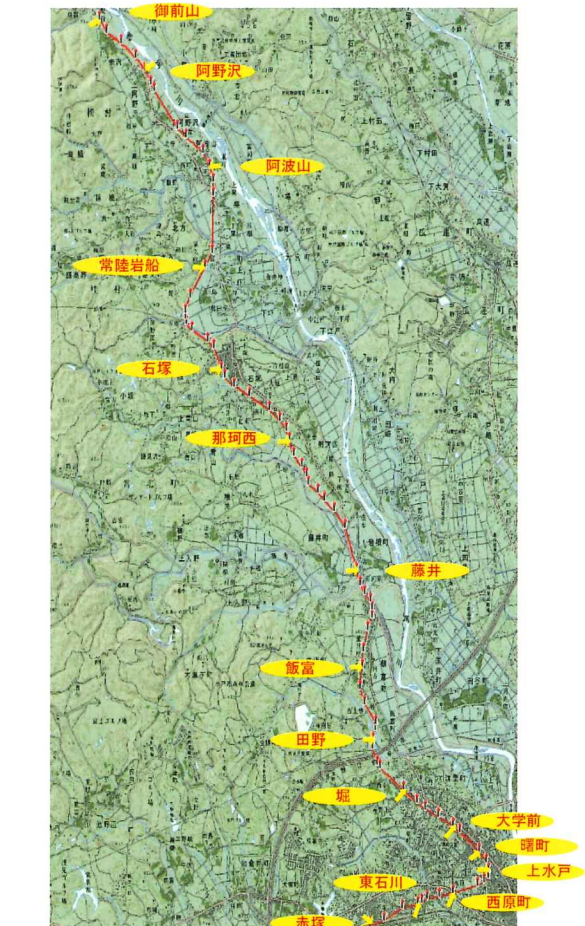


図-2 路線、駅位置図 (カシミール3Dによる)

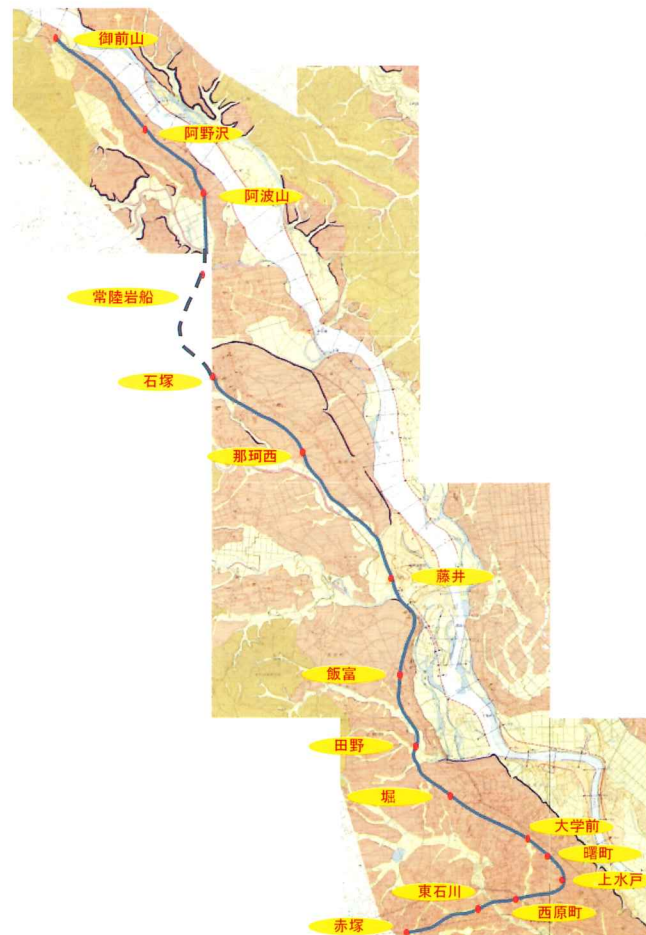


図-3 那珂川の治水地形分類図

図-3に那珂川沿いの治水地形分類図を示します。ここでオレンジ色の区域は洪積台地に相当し基盤層の上に砂礫層、ローム層の載っている海成あるいは河成による堆積地形を示しています。

図中の青実線は茨城線の路線、赤丸は駅位置を示しています。路線の大部分はオレンジ色域の台地上であり、藤井駅のみが沖積面に位置しています。(図面の見方：高い方から、黄土色は丘陵・山地、オレンジ色は洪積台地、クリーム色は沖積地、青が旧河道、白・水色は河道、水色は水面)

図-4に茨城線の路線標高を示します。図-2の路線の赤色の杭地点を結んで、ポイントに若干のずれがありますが、大体のイメージはつかめるといいます。全体で見て、高い地点は前記の海成の台地と那珂川の高位から中位の河岸段丘上、低い地点は低位の段丘、段丘崖下あるいは沖積面に位置します。赤塚駅から堀駅までは水戸市の主地域の載る台地と段丘上に位置します。飯富駅、那珂西駅から石塚駅付近は各段丘上に位置し沖積面から約40mほどの高度差を上り下りして行きました。牽引の機関車を重連したり、時には乗客に後押しをしてもらったこともあったそうです。石塚駅からは段丘面から徐々に下位の段丘面に下りて行き、常陸岩船駅、阿波山駅が低位の段丘面上にあり、阿野沢駅、御前山駅へと再び上の段丘面に沿って上っていきます。(台地も段丘も洪積台地に当たります。)



図-4 路線の標高断面図 (カシミール3Dによる)

2. 茨城線の各駅

茨城線16駅の運行当時と現在の新旧の写真と比較表示します。

1. 赤塚駅



常磐線赤塚駅 (JR元国鉄) が分岐点となり、茨城交通茨城線の起終点となります。北側の1番線が茨城線の発着ホームで、現在もホームと終点の証し「車止め」が残っています。



写真-1 赤塚駅1964 (S39) 年末 出典：2)



写真-2 赤塚駅 2012 (H24).10

2. 東石川駅



写真-3 東石川駅 1964 (S39) 年末 出典:2)

奥が赤塚駅方向で、現在の写真の丸の位置に当たります。マンションの向こう側で駅への階段を下りてホームに行ったそうです。



写真-4 赤塚駅 2012 (H24).10

3. 西原町駅

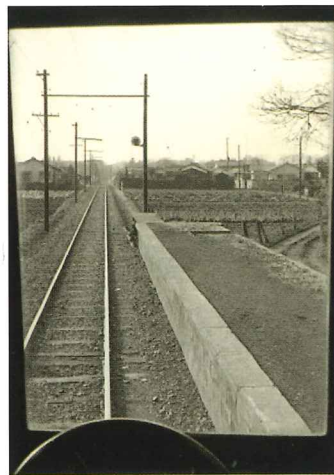


写真-5 西原町駅 1964 (S39) 年末 出典:2)

奥が東石川駅方向です。ほぼ直線的な線路敷で、右側の道路も現存しています。手前は国道50号線で踏切があったそうです。



写真-6 西原町駅 2013 (H25).01

4. 上水戸駅

茨城線と水浜線は別々の路線でした(左下図)が、昭和31(1956)年1月からは右下図に示すように、水浜線が茨城線に繋がり、大学前駅まで乗り入れられるようになりました。

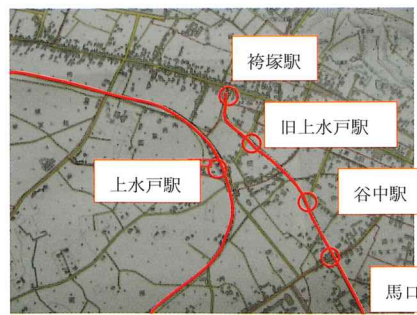


図-5 上水戸駅周辺図 出典:3)



図-6 水浜線と接続した上水戸駅周辺図 出典:4)

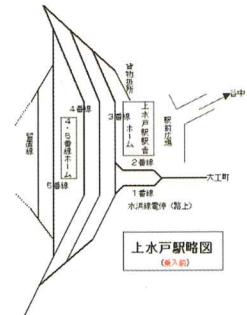


図-7 上水戸駅構内図 出典:2)

写真奥が大学前駅方向です。

古い写真は御前山からの気動車が入ってきたところです。駅跡地はスーパーの敷地となっています。



写真-7 上水戸駅 1959 (S34).10 出典:5)



写真-8 旧駅構内から大学前・御前山方面 2012 (H24).08

5. 曙町駅

写真右奥が上水戸駅方向です。

ブロック塀の前はプラットホームで、白い建物は水戸銀星映画劇場、ブルーの屋根の小屋も含めて現存しています。



写真-9 曙町駅 1961 (S31).5 出典:6)



写真-10 曙町駅 2013 (H25).01

6. 大学前駅

写真奥が堀駅方向です。駅の西側は茨城交通本社および茨大前(営)の事務所があります。そのままのようです。窓の位置もそのままです。信号右側方向に茨城大学があります。

赤塚駅からこの大学前駅までは1971(S46)2.11まで運行され、最後の運行区間でした。



写真-11 大学前駅 1964 (S39). 年末 出典:2)



写真-12 大学前駅 2013 (H25).01

7. 堀 駅



写真奥が田野駅方向です。

地元の方の情報により、温水プールのある「アクアクリニックおかざき」さんの近くの民家前の楕円マーク地点が旧駅跡ということで撮影しました。



写真-13 堀駅 1964 (S39). 年末 出典：2)



写真-14 堀駅 2013 (H25).01

8. 田野駅

8.1 田野駅手前の大事故地点

高台から吉田神社脇の坂道を北へ下り、常磐高速道路を潜って民家前に出ると、そこが田野駅跡です。インターネット記事には以下のように掲載されていました。

戦後間もない昭和20年11月26日午前7時頃、脱線転覆の大事故が発生しました。

列車が田野駅から堀駅に向かって、上り勾配の左カーブにさしかかった時、突然貨車・緩急車および客車の3両が脱線転覆しました。その時は朝のラッシュアワーで、列車には通学・通勤者で満員で、そのため即死者7名、その後1名、重軽傷者70名を出すという大事故だったそうです。事故の直接的原因は、3日位前の記録的大雨による地盤のゆるみと枕木の腐食だったようです。また、茨城交通水浜線が8月の空襲で大きな被害を受け復旧作業をしていたのと戦争による人手不足で保守点検が疎かになっていたことも原因とされています。

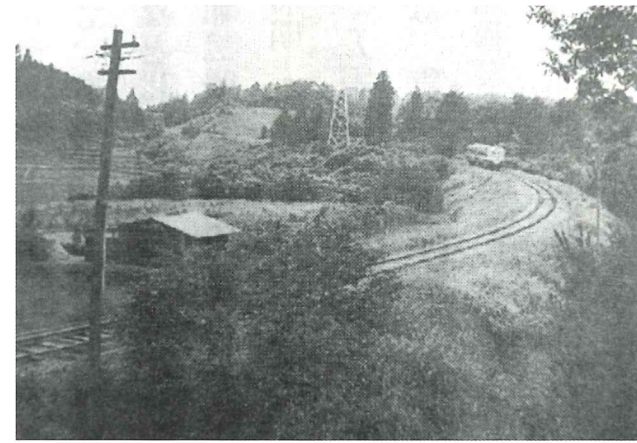


写真-15 事故地点付近の写真 出典：3)



写真-16 現在の事故付近 2015 (H27).08



写真-17 事故翌日の茨城新聞記事 出典：3)



写真-18 道路の立体3層構造 2015 (H27).08
上層から 常磐高速道路、茨城線廃線跡道路、高速側道 (各々の道路下を潜る)

8.2 田野駅

田野駅跡から高台に向かう道路沿いが最近きれいになりました。

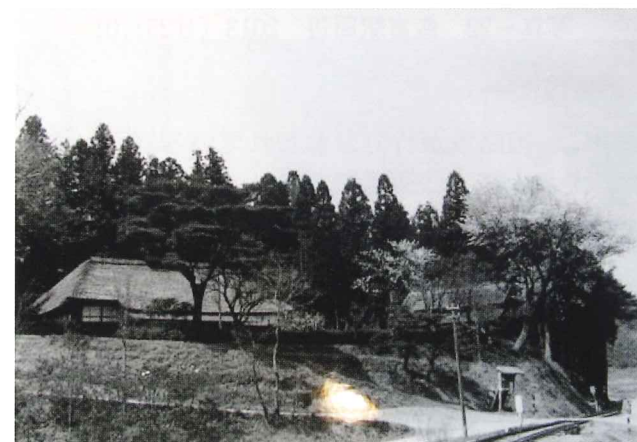


写真-19 田野駅周辺 出典：3)



写真-20 田野駅周辺 2015 (H27).08

9. 飯富駅



田野駅を過ぎ、水田地帯を抜けて坂を上がると路線跡は高台に出ます。
 写真は飯富駅で、奥が藤井駅方向となります。
 昔は駅周辺には家が少なかったようですが、現在は住宅が連なっています。



写真-21 飯富駅 1964 (S39). 年末 出典：2)



写真-22 飯富駅周辺 2013 (H25).01

飯富駅から藤井駅に向かって、台地から下りて行く途中に、線路敷が竹でおおわれている個所があります。軌道敷であることが連続性と形状から推測が可能ですが、車では通過できません。

また、古い地図を見ると、藤井川を渡る鉄橋が現在の道路通りで、昔の道路は現在より那珂川寄りだったようです。



写真-23 竹藪内の軌道敷跡 2013 (H25).01

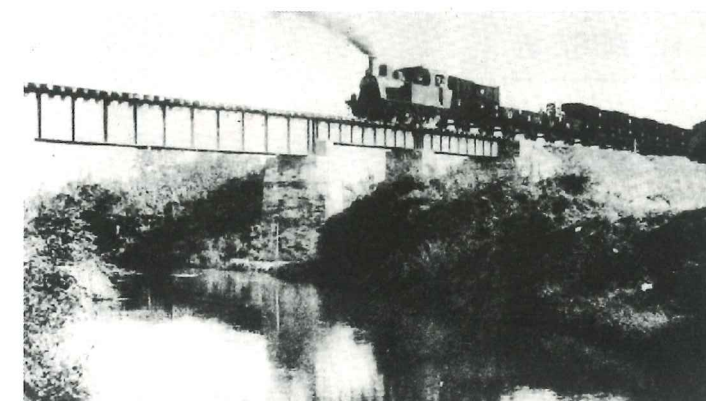


写真-24 藤井川鉄橋 大正末期らしい 出典：7)

10. 藤井駅



藤井駅の古い写真はなく、知人の記憶によると旧駅跡は現在コンビニストア辺りとのことでした。
 藤井駅跡から那珂西駅に向かっては、現国道123号上を北上し、高台の西側の水田地帯を西北に向かい、途中から台地上に上がります。その地点西側には十万原という雑木林の広大な原野がありました。近年の茨城県の開発により「水戸ニュータウン」(写真の楕円内)が建設されましたが、経営破綻により残りの土地がメガソーラー用地になりました。新しいタイプの幼小連携教育を実践するためにリリーベール小学校が平成16年4月に設立されました。



写真-25 藤井駅 2015 (H25).01



写真-26 藤井駅を過ぎて 2015 (H25).01

11. 那珂西駅



那珂西駅の跡地は、元茨城交通社員の造園会社さんにより綺麗に整備されています。当時のホームの一部や井戸、駅記念碑（1926（T15）.10.24開通式記念）が残っています。



写真-27 那珂西駅 1964 (S39). 年末 出典：2)



写真-28 那珂西駅 2012 (H24).12



写真-29 那珂西駅旧井戸 2012 (H24).12



写真-30 那珂西駅 記念碑 2012 (H24).12

12. 石塚駅



石塚駅跡地は、J Aやスーパー等のあるT字路に位置します。広々とした空間です。



写真-31 石塚駅 1968 (S43).06頃? 出典：8)



写真-32 石塚駅 2012 (H24).10



写真-33 石塚駅 1964 (S39). 年末 出典：2)



写真-34 石塚駅 (御前山駅方向) 1964 (S39). 年末 出典：2)

13. 常陸岩船駅



石塚駅を過ぎ、県道日立笠間線の道路（かつては踏切）を横切り、段丘の崖を緩やかに下りながらカーブして北上し、開けた空間に出ます。常陸岩船駅は台地と低地の坏地区の道路交差点辺りに位置します。



写真-35 常陸岩船駅 2012 (H24).10



写真-36 石塚の手這坂 2012 (H24).10

駅の東側には広大な田園風景（坏の美田）がひろがります。南東側台地端（石塚城）の国道123号線の急勾配とヘアピンカーブの手這坂（てばいざか、てんばいざかと言う）から見た景色は季節毎に美しい田園風景が見られるということで有名とか。私も美しいと思われる緑色（田植後）、黄金色（実りの稲穂）、黄褐色（刈取り後）を撮ってみました。他には「田植直前の水張」「秋の夕陽」「冬の雪景色」なのかいいろいろ挑戦してみたいと思います。写真奥に写る台地の崖下中央辺りが駅跡で、左右に茨城線が走っていました。



写真-37 坏の美田（田植後）2014 (H26).07



写真-38 坏の美田（実りの秋）2014 (H26).09



写真-39 坏の美田（刈取り後）2014 (H26).09

14. 阿波山駅



常陸岩船駅を過ぎて、現在は水田の耕地整理により線路跡はなくなっていますが、写真に示すように此方と彼方を見通して結んだ位置にあったと思われます。

阿波山駅跡は現在城里町桂支所、図書館等の敷地になっています。営林署があり、材木の積み出し駅でもあったそうです。



写真-40 常陸岩船駅から阿波山駅間 廃線跡なし区間 2012 (H24).12



写真-41 阿波山駅 出典：3)



写真-42 阿波山駅 2012 (H24).10

15. 阿野沢駅



阿野沢駅は、那珂川沿いの段丘の崖下に位置し、当時の写真もなくあまり印象的ではなかったのかも知れません。知人の記憶によるとこの桜並木通りとのことで写真を撮りました。



写真-43 阿野沢駅 2012 (H24).10

16. 御前山駅



16.1 阿野沢駅～御前山駅間

阿野沢駅を過ぎ一部畑となっている場所もありますが、ガソリンスタンド前辺りから段丘上に上がり、崖際を走っていました。跡地は国道123号沿いの公園等になり地元で利用されています。さらに終点御前山駅に近付くと、小さな川を渡るコンクリート橋台が残っています。



写真-44 国道123号沿いの線路跡を公園利用
2015 (H27).08



写真-45 御前山駅手前の橋台跡 2015 (H27).08

16.2 御前山駅

御前山駅跡は、暫らく空地でしたが、H27年8月現在は茨城交通メガソーラー発電所となっています。すぐ近くには関東の嵐山と称される名勝「御前山」や道の駅「かつら」があります。合わせてご覧になっては如何でしょうか。

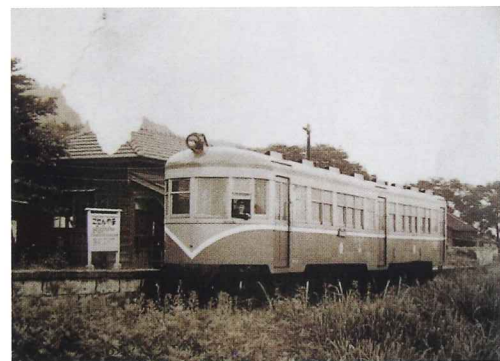


写真-46 御前山駅 出典：3)



写真-47 御前山駅跡の有効利用 2015 (H27).08



写真-48 那珂川大橋 大正末～昭和初期頃
出典：9)



写真-49 現在の那珂川大橋 出典：10)

3. おわりに

今回、茨城線（私には御前山線）を旧駅毎にちょっとまとめてみました。

地元の方にこちらから当時の話を伺いましたが、反対に声をかけて頂くこともありました。昔の写真を見せて頂くこともあり、貴重な情報をありがとうございました。

本文を読まれた後に一人でもこの廃線跡を見てみたい、行ってみたいと思って頂ければ大成功です。この路線内に不連続区間が3ヶ所（飯富駅～藤井駅間の竹藪、常陸岩船駅～阿波山駅間の耕地整理後の水田、阿野沢駅～御前山駅間で畑に土地利用）ありますので、そこは迂回して下さい。全区間を車で約1時間もあれば十分に見られると思います。くれぐれもキョロキョロしすぎて事故など起こしませんように。

今後は、水浜線にも拡大し、その他の自然環境・歴史・観光情報等も合体させて、歩いて楽しめる情報をより多く取り入れてまとめて行く予定です。

引用した情報・写真等の出典一覧

- 1) <http://9199.jp/wiki/>
- 2) <http://members.jcom.home.ne.jp/asahi-ga-oka/ibatetsu/ibatetsu.html>
- 3) http://blogs.yahoo.co.jp/yamada_collection2007/folder/1289559.html
- 4) 水濱電車－水戸から大洗・湊へー 小野寺 靖 川田プリント 平成24年1月20日
- 5) <http://6.fan-site.net/haasan55/IbarakiKotu.htm>
- 6) 63 茨城交通水浜線 中川浩一 (株)ネコ・パブリッシング2004年11月
- 7) <http://www7a.biglobe.ne.jp/~c11325/90382830/>
- 8) http://blogs.yahoo.co.jp/yamada_collection2007/31201560.htm
- 9) 常陸大宮市御前山支所蔵
- 10) 旧御前山村 (現 常陸大宮市) 郷土写真家 青木猛氏撮影

略 歴：岡崎 克美

1952年 茨城県常陸太田市生まれ

1975年 東京教育大学理学部 (現 筑波大学) 卒業

1975年 日本テトラポッド株式会社 (現 不動テトラ) 入社

この間に 株式会社エコー、(財)リバーフロント整備センター (現 公益財団法人リバーフロント研究所) 出向

2004年 中央技術株式会社入社 現在 顧問

資 格：技術士 (建設部門、河川、砂防及び海岸・海洋)、RCCM (同部門)
測量士、一級土木施工管理技士、一級造園施工管理技士 等